

# あなたの 肝臓は 大丈夫？

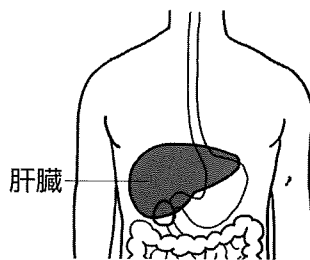
## 肝臓の特徴と働き

肝臓は体内で最も大きい臓器で、成人では重さが1.2～1.5kgあり、再生能力にも優れています。動脈と静脈の他に門脈と呼ばれる血管が通っていて、門脈は腸で消化吸収された栄養素を含む血液を、1分間に約1000ml肝臓へ運びます。また、門脈へは脾臓や脾臓からの血液も入り、肝臓はこれらの臓器とも連携して働きます。

## 肝臓の主な働き

- ①解毒 体内に入ってきたアルコールなどの有害物質を、毒性のない物質につくり替える。
- ②代謝 食べ物などから摂取した糖質やたんぱく質などの栄養素を、利用しやすいように合成・貯蔵し、必要な時に血液中に放出する。
- ③胆汁合成・分泌 ビリルビン（古くなった赤血球が壊れてできる黄色い色素）を処理して、食べ物の消化に必要な胆汁を合成し、十二指腸に分泌する。

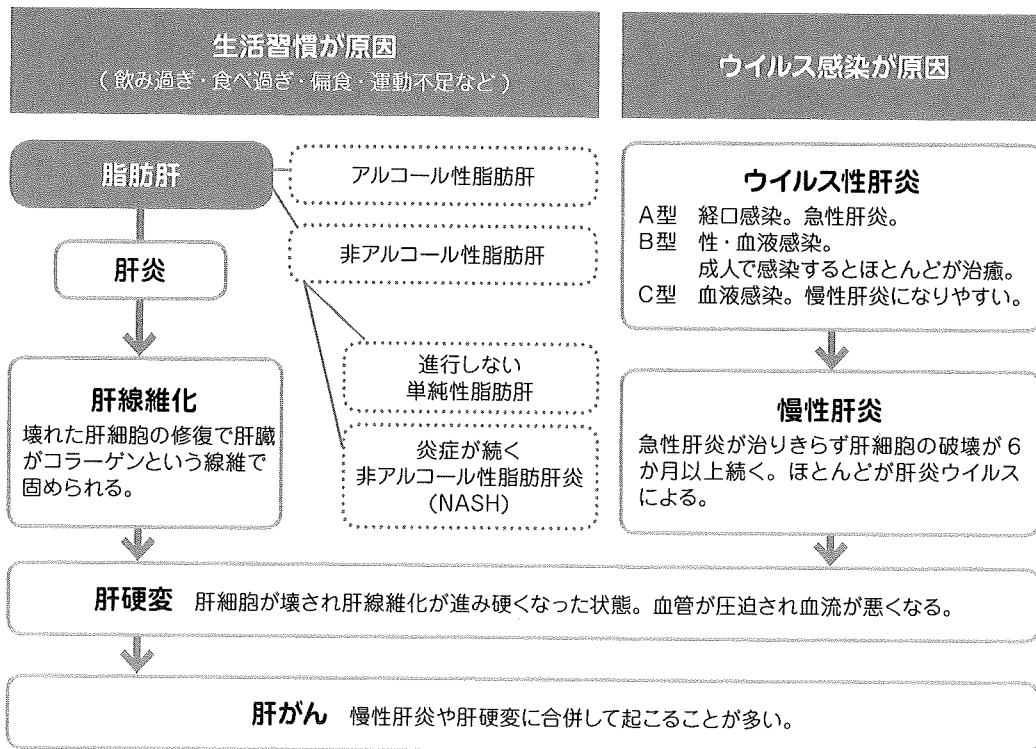
肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれ、異常があってもなかなか自覚症状が現れません。肝がんの原因の多くは、ウイルスの感染によって肝臓に炎症を起こすウイルス性肝炎ですが、生活習慣が原因で起こる脂肪肝でも、肝硬変や肝がんに進行することがあります。年に一度は健診を受け、肝臓の状態を確認しましょう。



## 血液検査からわかること

主な検査項目(基準値)	検査結果と肝臓の状態
AST (GOT) (10～30IU/ℓ)	肝細胞内にある酵素。脂肪肝、肝炎、肝硬変などで肝臓の細胞がたくさん壊されると、血液中へ流れ出る量が増えるため高くなる。特にALTは脂肪肝で高くなるため、肝臓内に中性脂肪が過剰な状態であることがわかる。
ALT (GPT) (5～30IU/ℓ)	
γ-GT (γ-GTP) (50IU/ℓ以下)	肝臓内でつくられる酵素。アルコール摂取量が多い時や脂肪肝がある時などに高くなる。

## 肝機能障害の原因と経過



※上記の他に、薬が原因で起こる薬剤性肝障害（アレルギー性・中毒性）があります。大部分はアレルギー性のため、薬の服用後、発熱・黄疸・皮膚のかゆみなどの症状が出たら服用を中止し、医師に相談しましょう。